



マイケル

高橋  
覚

家族がマイケルと暮らし始めてから十八年になる。わたしは当時岩手県北上市に仕事で赴任した。家族を連れていた。その勤務先の住宅にマイケルがやって来た。その時既に一歳にはなっていたから、今年十九歳になる。メス猫なのにマイケルとは、当時四歳だった上の娘が名づけた。マンガではやっていったキャラクター名だった。

近くの公園に、家内が下の二歳の息子の乳母車を押して散歩へ出かける度に、マイケルは現れた。ある日帰ると先回りをして、ベランダで待っていたそうだ。生来猫嫌いの家内は、それから毎日追い払うのに必死になって苦労した。わたしは帰宅する度にその話を聞いて苦笑した。

ところがその家内もとうとうある日、家に入り込んだマイケルが子どもと並んでテレビを見ているのを目にして、観念した。この猫は実は近所のアラレという飼い猫で、そこで犬を飼いだしたので家出中だったということがその後すぐ分かり、家内はマイケルを正式に譲り受ける挨拶まで交わしていた。マイケルは花巻が出身の猫だそうである。

黒柄でキジトラのマイケルは美人だった。オス猫が次々にマイケル目当てでやってくるようになった。マイケルが我が家の家族入りしたとたんに、家内は忙しくなった。集まってくるオスを追っ払う。いじめに来るのも追っ払う。わたしの仕事も増えた。今日も質の悪い猫がマイケル

をいじめに来た、と苦情の報告を受けては、家内の指示で、ついに餌を入れたダンボールで捕獲作戦をし、わたしは三回ほどそれらマイケルをいじめる敵を遠く離れた自分の実家の空き家や空き地に運んでは置いてきた。

ここがおまえの新天地。元気で暮らせ、サラパジャなどと言いついて残して……。中には首輪のついているのもいたから、よそ様の飼い猫もいた。今思い出しても、まことに申し訳ないことをした……。

マイケルは数多くお参りにやってきたオスの中から、真っ黒で体格のいい一番不細工な顔の相手を選び、子猫を五匹産んだ。そのもらい手探しにも家族はパニックだった。国道を挟んでちよつと離れた家にもらい手を見つけた。一匹うれたと喜んでいた翌日、マイケルは国道を渡つて子どもをくわえて帰つてきて見せ、家内をがっかりさせた。その後何とかすべてもらわれたが、これに懲りて、かわいそうだが去勢手術を施した。

マイケルは穏和で子ども好きだった。子どもが外で遊ぶ時は必ずそばにいた。上の娘の幼稚園の送り迎えはバス停に必ず一緒にいたし、近所の家へ遊びに行つて帰らない時は、迎えに行つて窓の外でにやーにやー言いながら待つていた。雪だるまや鎌倉を作ると、興奮してその上に駆け上がった。

二戸市へ転勤の時には、家族と一緒にマイケルも引越した。二戸の住人となったマイケルは元氣そのものだった。家内が買い物に行くと、必ず途中までお迎えに行った。去勢のせいで焼きもち強くなったのか、子どもが近所の猫と仲良くするや飛んで行ってけんかをふっかけた。家の裏手にやはり去勢猫が飼われていて、去勢どうし、虚勢を張り合いわたりあい日課になった。といつても呻り合いを長時間するだけで満足し、互いに手を出すことはめつたになかった。

マイケルは二戸で事故にあった。もともと出入り自由にしており、トイレも外でしていたが、ある日外から帰って来てどたりと廊下に座り込んだまま動かなくなった。家族はびっくりしてすぐ八戸の動物病院へ連れて行った。体温が下がっていると言われた。

「道路に出て車に巻き込まれたのでしょうか。長生きさせたいなら、もう外へ出さないことですな。」

マイケルは一週間入院しお金をたっぷりかけて帰って来た。後ろ足をやや引きずっているが、元氣になってほっとした。それからは長い習慣だった外出が家族によって禁止され、外へ逃げ出そうとするマイケルと家族の戦いが始まった。

二戸から仙台へ移ってきて丸十年が経った。マイケルの逃走がたまに成功する度家族が大

騒ぎして捕獲作戦をするのは、今も変わらない。近所の人を外にいるマイケルを見つけたといつて、腕に抱えて持って来てくれたこともある。

マイケルも年をとったなど最近つくづく思うことがある。以前なら二階の窓から逃げ出し屋根に登って木を伝わって軽々と逃走した頃の勇姿は今はなく、屋根から降りれないと鳴くようになった。テレビの上にさえ上らなくなった。かといって、このバアさんの油断のならないところは、家族がドアや窓を開けた後必ず点検しに行くことである。

マイケルは以前から人の顔をじっと見つめる猫だった。子どもや家内の寝ている枕元に座って、長時間寝顔をじっと見ていることがある。訳あって私は近年両親と祖父母の位牌を岩手から仙台に移し、仏壇を設けた。幼少時に逝った母や孫の顔を見たい祖母などがかわるがわるマイケルに入っているに違いない、と家内が言う。そうかもしれない。マイケルもたいへんだな。子どもは二十歳の大学生と高三になった。マイケルはやはり子どもがいくつになっても、いるときは嬉しげな様子になる。家内はマイケルを子育ての戦友と呼び、子どもたちはマイケルを第二の母と思って育ててきた。

メス猫マイケル十九歳。人間年齢だと九十二歳になるそうだ。岩手の花巻で生まれ、北上、二戸、仙台と引っ越しを共にした。家族の生活はいまだにマイケルを中心にして回転している。

わたし以上の大黒柱かもしれない。